

|    |                            |    |
|----|----------------------------|----|
|    | 表紙                         | 01 |
|    | キラリびと 衣川顕子                 | 02 |
| 特集 | 令和4年度決算                    | 04 |
|    | シニア世代に学ぶ健康法                | 06 |
|    | 市政情報                       | 10 |
|    | TOPICS<br>かさいすくすく子育てアプリ    | 12 |
|    | イベントカレンダー                  | 16 |
|    | まちかど PHOTO ★ニュース           | 18 |
|    | くらしお役立ち情報                  | 22 |
|    | わくわく子育て情報                  | 29 |
|    | そうだ！図書館へ行こう                | 30 |
|    | かさい消防ニュース                  |    |
|    | おくやみ／各種相談                  | 31 |
|    | とびだせ！かさいっ子                 | 32 |
|    | 加西から広めよう世界の輪<br>みんなで使おう加西弁 |    |

KASAI データバンク

R5.8.31 現在 (前月比)  
 人口 / 42,043 人 (-30)  
 男 / 20,648 人 (-17) 女 / 21,395 人 (-13)  
 世帯数 / 18,484 (-16)  
 8月の出生数 / 19 人 死亡数 / 51 人  
 ● 10/11、25 は市民課・国保医療課窓口を延長  
 (17:15 ~ 19:00)

毎年1人はNコン県大会に出場するなど、確かな実績を残していきました。令和3年、鵜野飛行場跡や周辺の戦争遺跡、そこでガイドをする北条高校の生徒を題材にした、ドキュメント作品を受賞。審査委員の心を打ち、優秀賞を受賞。Nコン全国大会への切符を手に入れました。「快挙に」生徒たちは本当に頑張った。うれしかったです。と当時を振り返り笑みをこぼしました。

地域連携に舵  
 平成28年、北条高校は学校の生き残りをかけて動き出します。地域と一緒に活動を行い、探究心を身に付ける「人間創造コース」を創設。衣川先生はコース委員長として奔走しました。「探究活動ってどこですか？私たちが何ができる？」。毎日考えたといえます。そして、手探りの中、カリキュラムを作っていました。最初に訪ねたのは、あびき湿原保存会。会員の方たちと一緒に木道づくりや草刈りを実施。他にも、小学校を訪れ、児童に読み聞かせを行いました。検討会議や、地域に足を運ぶ日々が続

①英語の授業で。個性を伸ばす指導法を心掛ける  
 ②人間創造コース1期生まちづくり班。ハチドリまつりに出店③放送部、テレビドキュメント部門で全国大会に出場(2年ぶり2回目)④40年在籍。西脇市吹奏楽団でも活躍



キラリびと vol.30

衣川 顕子 Akiko Kinugawa

昭和40年生まれ。西脇市出身。英語科教員。平成25年北条高校に赴任、放送部の顧問となる。平成28年同校人間創造コースの立ち上げに尽力。令和3年放送部を同校初の全国大会へ出場させる。趣味は御朱印巡り。5人の孫を持つ。



一日一生、地域の学校守り抜く

今年、創立100周年を迎える兵庫県立北条高校。最多で、11あったクラスは現在3クラスに。8年前から学校の存続をかけて「地域連携」に舵を切り、「人間創造コース」が設置されました。今月のキラリびとは、同校英語科教員の衣川顕子さん。新コース創設時にコース委員長として携わり、また、放送部の顧問として、同部を初の全国大会へ導きました。正面から生徒と向き合う、衣川先生の教育に対する熱い思いを取材しました。

とにかく楽しく

早いテンポで次から次へと指示を出す。生徒たちはそのペースに付いていくのに必死です。「重要なのは、ここは覚えなアカン」とはっきり言ってくれる。大変だけど楽しいです」と生徒たちが口を揃えて言う衣川先生の英語の授業。スピーキングやプレゼン時には海外映画を字幕で見せるなど、知識を詰め込むだけでなく、実践的動きのある授業を展開します。

「常に考えて答えにたどり着く。英語は実技科目だと思っています」と笑顔で話してくれました。

いつだって本気

「やるからには楽しく全力で」。衣川先生のモットーです。加古川西、多可高と渡り、平成12年、西脇高校に赴任。部員全員が卒業した後で、ゼロになっていた放送部に顧問として就任。「部員を獲得して活動したい」と生徒を勧誘、4人が入部しました。

2カ月後、放送部の甲子園である、NHK杯全国高校放送コンテスト(以下:Nコン)に出場するも予選で惨敗。

「やるからには楽しく全力で」。衣川先生のモットーです。加古川西、多可高と渡り、平成12年、西脇高校に赴任。部員全員が卒業した後で、ゼロになっていた放送部に顧問として就任。「部員を獲得して活動したい」と生徒を勧誘、4人が入部しました。

「これほどフィールドワークをしている学校はないだろう」と胸を張りまします。続けて「今では地域との連携も定着しました。大成功です」と達成感に満ちた表情を浮かべました。

そして未来へ

今年、北条高校は創立100周年を迎えます。学校の未来について何と、

「これではいけない」と思い、放送部顧問指導者研修に参加。発声やアクセントの練習方法を学び習得しました。指導法を変えようと生徒たちもメキメキと上達。団体の部である「ラジオ番組部門」で、見事予選を突破して県大会に出場。顧問になって8年目、初の快挙でした。

平成25年、指導者として脂が乗ったころ、13年間在籍した西脇高校を離れ、北条高校への異動が決まりました。

全国への切符

北条高校放送部。部室に顔を出した部員は2名で、あまり活動を行っていない状態でしたが、前任校の経験から、Nコン出場に目標を設定します。

就任5年目、映像編集が得意な小林美由紀先生を副顧問に迎え、「あびき湿原」を題材にした番組を制作。半年間取材し、その間、何度も撮り直しをしました。生徒たちは慣れない編集作業にも苦戦します。遅い日は下校が夜7時を回ることも。初の大作でした。作品は、Nコンを経て近畿総合文化祭に選出されました。なお、個人の部である「朗読・アナウンス部門」では

「2年後、人間創造コースは新学科へと生まれ変わります」と教えてくれました。コンセプトは「自分で考え・選び・決める」。STEAM教育や英語にも力を入れ、新しい時代のカリキュラムを作るそうです。

その狙いは？と質問。「本物を見せ、自分で考え、学び。地域との繋がりを大切にして、加西を愛する若者を育てること」と答えてくれました。

「今月中旬にロケットを飛ばします」と新たな取り組みを発表。新学科に先駆けて、下町ロケットのモデルにもなったともいわれる、北海道の産業機器メーカーの支援を受けて、生徒らが設計図を見ながら自分で組み立て、飛ばすそうです。

好きな言葉は一日一生。衣川先生はこれからも全力で北条高校を守り、ふるさと貢献に力を注ぎます。